

オーディオ実験室収載

バッハ盤を聴く(14)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(14)—

1. 始めに

前報(13)に引き続き、バッハのアナログ盤を聴き直していきます。

2. バッハのアナログ盤の試聴方法

試聴システムは LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、今回は LINN LP-12 で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンチスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。

今回は、次のレーベルを聴いてみます。

ドイツグラモフォン 4835219

J.S.バッハ ヴァイオリン協奏曲 1 番イ短調他

ヒラリー・ハーン (ヴァイオリン)

ジェフリー・カヘイン指揮ロスアンゼルス室内オーケストラ

ドイツグラモフォン 483-6927/6928/6929

J.S.バッハ Sonatas & Partitas

Nathan Milstein (ヴァイオリン)

ドイツグラモフォン SLGM-1331/32

J.S.バッハ ブランデンブルグ協奏曲

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィル

ドイツグラモフォン MEX1107

J.S.バッハ ピアノ小品集

クリストフ・エッシェンバッハ (ピアノ)

3. バッハのアナログ盤の試聴結果

ドイツグラモフォン盤は、ZANDEN のリストでは、オリジナルメタル盤の TELDEC、R、第 4 時定数 Mid とデジタル録音の TELDEC、N、第 4 時定数 Mid とポリドール盤の DECCA、R、第 4 時定数 Mid の三つとなっています。

ヒラリー・ハーンのヴァイオリン協奏曲は、2003 年の発売のデジタル録音ですので、TELDEC、N、第 4 時定数 Mid で聴いていきましたが、違和感はありません。デジタル録音らしく、くつきりとメリハリのある音で、現代的な演奏です。

Milstein の **Sonatas & Partitas** は、リファレンスとして聴いているお馴染みの盤で、TELDEC、R、第4時定数 Mid で聴いていきます。聴きなれた盤ですが、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に **Crstal EpY-G** をセットしてからは初めてで、その効果により、艶のある音色で Milstein のボウイングの細かな動きが手に取るように分かります。

ブランデンブルグ協奏曲は、1966年販売の日本グラモフォン扱いの見本盤です。まずは、TELDEC、R、第4時定数 Mid で聴いてみましたが、騒がしくて違和感があります。盤質が悪く苦労しましたが、種々試行錯誤し、EMI、R、Mid くらいが聴きやすいところという感じです。

エッシェンバッハピアノ小品集は、ポリドール盤ですので DECCA、R、第4時定数 Mid で聴いていきましたが、違和感はありません。教育用との記載があり、愛らしい小品を集めての初心者向けのお手本の楽譜に忠実な演奏のようです。

4. まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1)の結果をトレースでき、レベルのイコライザー特性が特定できました。聴きなれた Milstein の **Sonatas & Partitas** において、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に **Crstal EpY-G** をセットした効果を確認できました。

以上